

波多利朗の Funky Goods

かつての「七大電腦商場」も様変わり…… 消長が著しい香港電腦中心事情〈その1〉

評価の高いUMCのチップセットを 載せた2つのマザーボード

注1)毎年5月の連休に、香港を訪問することになっている

昨年も香港各地の電腦中心を訪問し、本誌1994年9月号に「マニアのための香港電腦中心ガイド」と題してご紹介した。

注2)価格は10万8000円であった

当然のことながら、5月の連休は特別料金となるので、通常よりも高つく。まったく同じ内容のツアーであっても、連休前日の料金と連休初日の料金とでは3万~4万円の価格差が出てしまう。

ちなみに、連休以外の平日に行く香港ツアーには、3泊4日で6万8000円という「価格破壊ツアー」もある。

注3)尖沙咀にある君怡酒店 (The Kimberley Hotel)

The Kimberley Hotel
28 Kimberley Road, Tsimshatsui.
Kowloon, Hong Kong
TEL: 852-2723-3888
FAX: 852-2723-1318

注4)設備もよく

ホテルの設備の問題は重要だ。特に水ハケが悪くてトイレが流れないような場合、悲惨である。用を足して水を流したとたんにお風呂が溢れ出てくると、もうパニック状態だ。

筆者は、毎年5月の連休に香港を訪問することになっている(注1)。目的は、うまい中国料理を食べること、「電腦中心」巡りをするためだ。

というわけで、今年もまた香港を訪ねた。そこで、2回に分けて、現在の電腦中心事情と、そこで購入したグッズ類についてご紹介したい。

3泊4日10万8000円の香港ツアー

最近ではリピーターが増加しているためか、香港ツアーにも「観光なしの完全フリー」の格安ツアーが目につくようになってきた。これは、電腦中心巡りを目的としている筆者のような人間にとっては、非常にありがたいことだ。

今回も、某旅行会社主催の「完全フリー3泊4日ツアー」を利用した。4月28日出発のコースで、価格は10万8000円であった(注2)。

利用したホテルは、尖沙咀にある君怡酒店(The Kimberley Hotel)(注3)である。このホテルには、地元では結構有名な日本料理店「花水木」が入っている。決して高いホテルではないが、上品で設備もよく(注4)、気に入った。

さて、最近の円高はすさまじいものがあるが、今回の香港旅行でもそれを実感することができた。ちょうど1年前に行った際には1香港ドル=約14円というレートだったが、今回は11円台に突入していた。参考までに、表1に香港各所でのレートを示しておくが、やはり市内の恒生銀行のレートがよいようだ。

深水埗と旺角に集約される『電腦中心』

昨年の5月に訪れた際には、香港には「七大電腦商場」と呼ばれる7つの電腦中心があったが、今回訪問して

みたところ若干の変化が認められた。

まず、銅鑼灣電腦中心だが、ほとんどのショップがもぬけのカラになっていた。どうも、すぐ近くにある皇室堡電腦廊に移転してしまっただけである。

この皇室堡電腦廊も、テナント料が高いせいか相変わらず閑散としており、きれいではあるが価格はそれほど安くはないようだ。

反面、深水埗の高登電腦中心の盛り上がり方はすさまじく、連日活況を呈している。価格も安く、ここでほとんどのものが入手できる。

高登電腦中心の地下1階にはCD-ROM専門店が10店舗以上も軒を連ねており、CD-ROMの普及ぶりを感じさせる。1年前には考えられないほどの多さである。そして、正規版のCD-ROMを販売する店は少なく、コピー版のオンパレードだ。ほとんどの店で、3枚1組200香港ドルという値付けであった。

深水埗には、高登電腦中心のほかにも、新高登電腦中心、科技電腦中心がある。

新高登電腦中心は最近できたビルで、まだショップがそれほど入っておらず、特に目新しいものはない。

科技電腦中心は、スーフファミ、セガサターン、プレイステーションなどのゲーム専用機専門のところで、サターンやプレイステーション用のCD-ROMソフトのコピーも販売されていたが、コピーであるにもかかわらず、日本と価格差がほとんどないような状況だった。カラーコピーしたプレイステーションやサターン用のソフトのジャケットをカッターできれいに切断し、コピーしたCD-ROMと一緒にケースに入れている光景も見受けられた。

旺角の電腦中心もかなりの賑わいだったが、品揃えという点では、どうしても深水埗に一步譲るようだ。

いずれにせよ、香港の電腦中心はほとんど深水埗と旺角に集約されているといっても過言ではない。時間がなくなるときには、深水埗だけでも十分事足りる。

マザーボードを2本購入した

いま話題のマザーボードといえば、IntelのTritonチ

◎表1 各所の香港ドルレート

• 1995/04/28啓徳國際空港内にある第一國際資源有限公司
1 香港ドル=11.418円
• 1995/04/28君怡酒店内の両替所
1 香港ドル=11.758円
• 1994/04/29尖沙咀にある恒生銀行
1 香港ドル=10.922円

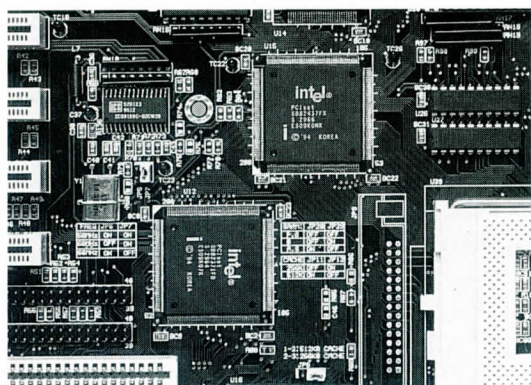


写真1 Intel Tritonチップセット。マザーボードはPC CHIPS社製

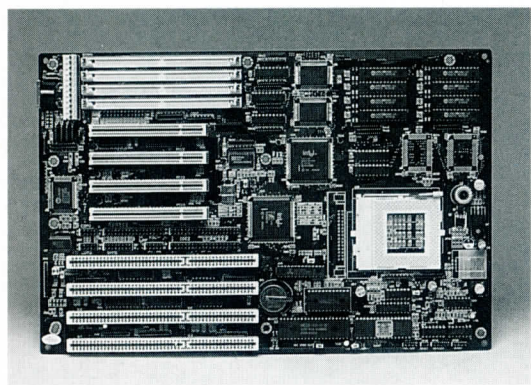


写真2 PC CHIPS社製Tritonチップセット使用のマザーボード

チップセット(注5)(写真1)を使用したものであろう。

秋葉原ではASUSTek社製のPCI/I-P55TP 4を見かけるが、4月末の時点では扱っている店もまだ少なく、ほとんど品切れ状態である。香港でも同様のマザーボードを見かけたが、旺角電腦中心では上記のボードが2300香港ドルで売られていた。

ASUSTek社製PCI/I-P55TP 4の新バージョンがちょうど入荷したところらしく、店頭に展示されていた。このボードには、PCIスロットの脇にASUSTek Media Busと名付けられた“謎の拡張スロット”が並んで実装されており、かなり怪しいがおもしろそうな製品である。詳細は不明だが、どうもASUSTek専用のローカルバスのようなのだ。

今回の香港旅行では、ピーシー・チップス・ジャパン株式会社(注6)の取締役である鄧國俊氏と現地でも落ち合い、氏の香港事務所を案内していただいたが、その機会にできたてホヤホヤのPC CHIPS社製Tritonマザーボードを入手してきた(注7)(写真2)。この事務所訪問については、のちほどご紹介する。

さて、香港の電腦中心でマザーボードを2本購入してきたのでご紹介しよう。

最初は、UMCのチップセットを使用した「PT2066 PCI Mainboard」という、80486用のマザーボードであ

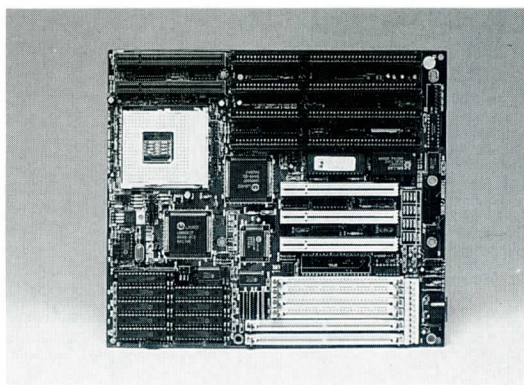


写真3 PT2066PCI Mainboard

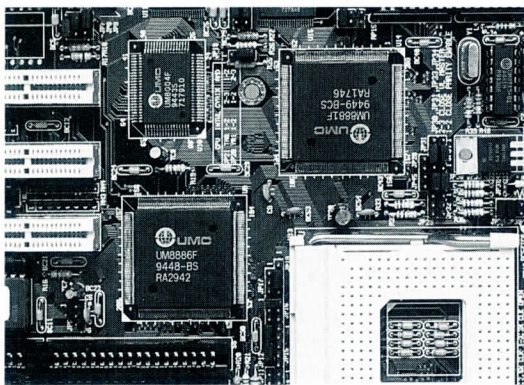


写真4 UMCのチップセット

る(写真3)。このボードの構成は、まさに“なんでもあり”となっている。表2に、その仕様を示す。

このボード、以前、秋葉原でも2万2000円程度で販売されていたことを覚えているが、今回は950香港ドルで購入してきた。

UMCのチップセット(写真4)を使用したマザーボードは過去の評価でかなり速いことがわかっているが(注8)、このマザーボードではさらにマウントホルルの位置がIBM PC/XT純正ケースにも格納できるように開いているため(注9)、筆者のようにいまだにXT純正ケースを流用している者には非常に重宝である(写真5)。

次は、MG PRODUCTという会社の「MG-PCI486 Green Mainboard」という製品である(写真6)。

◎表2 PT2066PCI Mainboardの仕様

CPU	Intel 80486SX/DX/DX2/DX4/SL-enhanced/OverDrive AMD Am486DX/DX2/DXL/DXL 2 Cyrix CX486DX/DX 2 (M 7) UMC U 5 S-25/33/40
SIMM	72pin SIMMスロット×2 30pin SIMMスロット×4
Bus	ISA×4 VL×2 PCI×3
BIOS	AWARD
Cache	256KB
Chip Set	UMC UM8881F、UM8886F、UM8004F

波多利朗の Funky Goods

注5)IntelのTritonチップセット

いまや、猫も杓子もTritonである。

Intelのチップセットには、486用のSaturn、Ariesと、Pentium用のMercury、Neptuneなどがあり、TritonはPentium用の最新のチップセットということになっている。バーストSRAMやパイプラインバーストSRAM、EDO DRAMなどの対応、PCIバスのバンド幅の向上、NSP(Native Signal Processor)への対応などが特徴である。

余談だが、P 6用のチップセットはOrionというそうだが、ほんとかどうかは未確認である。

注6)ピーシー・チップス・ジャパン株式会社

本誌7月号で、「PC CHIPS社のマザーボードで遊ぶ」と題してご紹介したマザーボードメーカー。

中国本土に工場を置き、ワールドワイドで年間400万枚以上を製造する大手メーカーである。今回は、実はこのPC CHIPS社の中国工場を見学する予定であったが、都合で延期となった。中国大陸では、はたしてどのようにマザーボードが製造されているものか、興味深い。またの機会に、ぜひご紹介したい。

注7)できたてホヤホヤのPC CHIPS社製Tritonマザーボード

まさに工場から届いたばかりの製品で、まだマニュアルの印刷もすんでいないものであった。ただし、チップ供給の問題から、このTritonのマザーボードにはバーストSRAMが実装され

波多利朗の Funky Goods

ておらず、通常のSRAMが搭載されたバージョンであった。

注8)過去の評価でかなり速いことがわかっている

本誌7月号の「PC CHIPS社のマザーボードで遊ぶ」でもご紹介したが、UM8881、UM8886チップセットを使用したマザーボードは、メモリ関係のスピードがかなり高速である。

注9)IBM PC/XT純正ケースにも格納できるように開いている

いまだにIBM PC/XT純正ケースを流用している人は稀だと思うが、筆者はこのケースにこだわりを持っているので、どうしようもない。

XTケースに格納するためには、通常、ISAバスロットの外側に開いているマウントホールが内側に開いている必要がある。もっとも、ここに穴が開いていなくても、工夫すればケースに収めることは可能だ。余談だが、筆者の持っているPT2066PCI Mainboardでは、基板上にシルク印刷されている「MADE IN CHINA」が、なぜかホワイトで消されていた。謎である。

注10)WITTY COMPUTER CO., LTD.

WITTY COMPUTER CO., LTD.
Shop93-94Golden Shopping Center,
94Yen Chow St., Sham-shuipo.
Kowloon, Hong Kong
TEL : 2360-0018, 2360-0602
FAX : 852-2387-3375

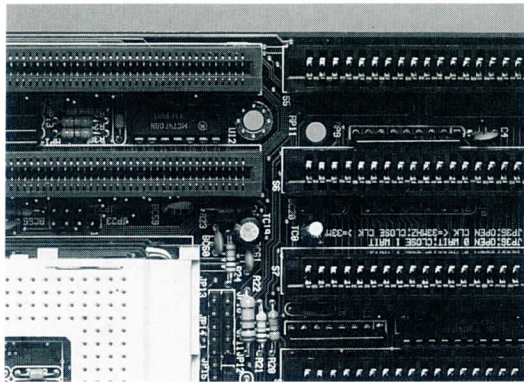


写真5 PT2066PCI Mainboardのマウントホール

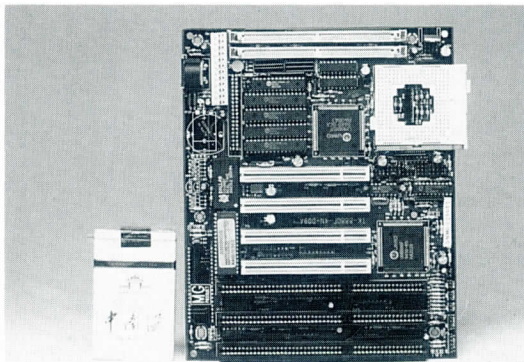


写真6 MG PRODUCT社製MG-PCI486Green Mainboard(左)に置かれているのは、比較のための中国製タバコ

このマザーボードの特徴は、とにかく小さいことだ。基板の大きさが縦18.0cm×横22.2cmと、Baby-ATサイズのマザーボードの半分程度しかない。

PT2066PCI Mainboardと同様、チップセットにUMC UM8881F、UM8886Fを使用しているため、基本的な仕様も同一となっている。CPUもDX4までサポートしている。

また、このように超小型マザーボードであるにもかかわらず、2次キャッシュを256KB実装しているのは立派である。SIMMスロットは72PINタイプが2本用意されており、PCIスロットは3本、ISAスロットは4本である。

基板上にキーボードコントローラが見当たらないが、これはチップセットにコントローラが内蔵されているためである。実装面積が狭いため、CPUソケットなどは基板の外にオーバーハングしているありさまだ(写真

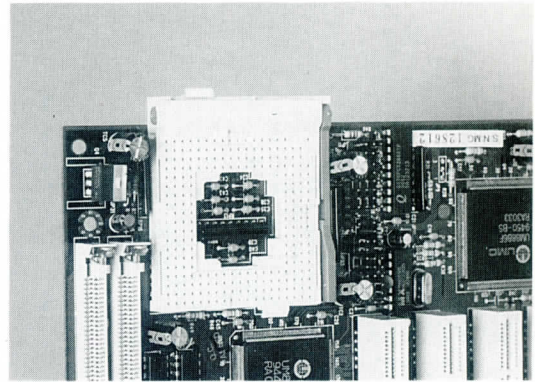


写真7 MG-PCI486Green MainboardのオーバーハングしたCPUソケット

7)。

このマザーボードは、深水埗の高登電腦中心内にあるショップWITTY COMPUTER CO., LTD. (注10)にて、900香港ドルで購入した。

このほかにもPentium対応のマザーボードは飽きるほど見かけたが、いちいち紹介すると日が暮れてしまうので割愛する。

Leadtek社のWinFast S250

PCIのビデオカードもいろいろな製品が出ており、日本と比較すると結構安い。表3に、その一例を示す。

置いてある製品はほとんどが1MBのものであり、2MBを希望するとその場でメモリを増設してくれる。

今回は、Vision868を使用したLeadtek社製WinFast S250(写真8、9)を、旺角電腦中心にあるショップ精信電腦公司(EGO-WARE COMPUTER CO.) (注11)で購入した。

価格は1300香港ドルだったが、ドライバディスクのインストーラがよくできており、Windows3.1用のドライバインストールではU.S.版のほかに、German、Chinese、そしてJapaneseも選択できるようになっている。また、DCI(Display Control Interface)を内蔵し



写真8 Leadtek社製WinFast S250のパッケージ

◎表3 香港におけるビデオカードの価格

S3 Vision864	1MB PCI ノーブランド製品	700香港ドル
S3 Trio64	1MB PCI ノーブランド製品	750香港ドル
S3 Trio64	2MB PCI ノーブランド製品	1100香港ドル
S3 Vision868	1MB PCI Leadtek WinFast	1300香港ドル
S3 Vision868	1MB PCI Leadtek WinFast	1700香港ドル
Cirrus CL-GD5430	1MB PCI ノーブランド製品	750香港ドル
Trident TGU19640	1MB PCI ノーブランド製品	700香港ドル

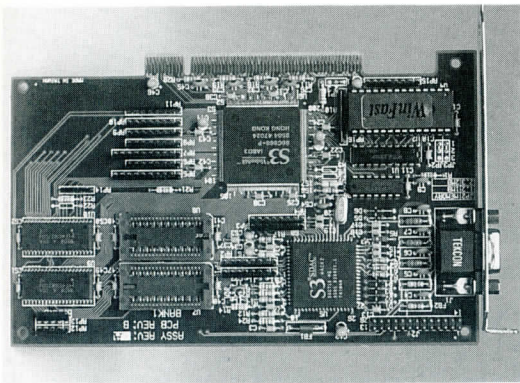


写真9 Leadtek社製WinFast S250ビデオカード

ており、ソフトでMPEG1画像を再生するMPEG PLAYERも付属している。

香港の各ショップではPCIビデオカードを多数見かけたが、DiamondやNumber 9、MATROXといった有名ブランドはほとんど見かけなかった。

PC CHIPS社の香港事務所を訪問

今回の旅行では、筆者のかねてからの知り合いであるマザーボードメーカーPC CHIPSジャパンの代表取締役、鄧國俊氏の案内で、PC CHIPS社の香港事務所を



写真10 PC CHIPS社の香港事務所内部。左側に立っている男性が、劉尚風取締役



写真11 事務所の応接室に展示されているボード類

訪問する機会を得た。

PC CHIPS社の香港事務所は、九龍半島側の地下鉄九龍灣駅近のビルに入っている(写真10)。ビル2階が事務所、3、4階が倉庫と実験室になっている。事務所内の応接室には同社の製品群が展示されており、いかにもボードメーカーといった雰囲気である(写真11)。

実験室では数名のエンジニアが新製品のマザーボードの動作チェックを行っていたが(写真12)、ここに勤めるエンジニアは、いずれも台湾、香港の大手メーカーの設計部門から引き抜かれてきた精鋭揃いである。また、動作に不具合のあるボードの解析調査も、ここでやっている(写真13)。

実験室内には、そこら中にCPU、メモリ、マザーボードが山積みされており、筆者のようなジャンク廃人には“天国”のような雰囲気だ。

倉庫を覗くと、中国の工場で生産されてきたマザーボードの段ボール箱が山のように積まれていた(写真14)。試みにこの段ボール箱をひとつ開けてみると、中には梱包されたマザーボードが10枚、ぎっちり詰まっていた(写真15)。できたてのTritonマザーボードである。

こうした段ボール箱が文字通り天井まで積み重なっているの、マザーボードの総数はとてつもない枚数になると思われる。

PC CHIPS社の工場は中国本土の深圳にあり、見学する予定になっていたのだが、残念ながら都合により延



写真12 実験室での評価風景

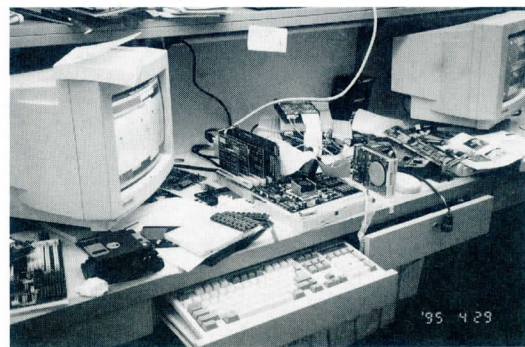


写真13 同じく、実験室での評価風景

波多利朗の
Funky Goods

注11)精信電腦公司(EGOWARE COMPUTER CO.)
Shop318, Mongkok Computer Center.
8 Nelson Street
Mongkok, Kowloon, Hong Kong
TEL: 2780-6856, 2740-9418
FAX: 2780-6902



写真16 麻雀幻想曲IIのパッケージ



写真17 麻雀幻想曲IIのCD-ROM

注12)天堂鳥資訊有限公司
(TAN TON NERW
INFORMATION
CO., LTD.)
台北縣親店市民權路42巷
59弄8号6F
TEL: 886-2-918-4877
FAX: 886-2-918-7334



写真18 麻将情趣屋IIのパッケージとCD-ROM



写真19 光明聖使團(Mission)のパッケージとCD-ROM



写真14 PC CHIPS社香港事務所の倉庫内部

期となった。中国の工場は規模の大きさを誇っているとのことなので、ぜひ見学したかったのだが、心残りである。また次の機会にでもご報告することにした。

PC CHIPS日本の鄧國俊氏に、おいしい飲茶料理をご馳走になったことをつけ加えておく。

美少女系“ビョーキ”ソフトの氾濫

次に、ゲームソフト事情をご紹介します。

香港ではIBM PC互換機が主流であるため、アメリカ製の有名なゲームソフトは、いたるところで入手することができる。こういったソフトを紹介してもおもしろくもなるともないので、その筋の“ビョーキ”ソフトをご紹介します。

日本では、PC-98をベースにしたアニメキャラパリの、いわゆる美少女系Hソフトが大はやりだが、この手のソフトは香港、台湾あたりでも人気があるようだ。というわけで、香港で見かけたその手の製品のいくつかを取り上げる。

・麻雀幻想曲II

日本のソフトハウス、アクティブソフト作成のPC-98用18禁美少女麻雀ソフトだが、これを台湾の天堂鳥資訊有限公司(注12)がIBM用に移植したものである(写真16)。

パッケージの表面には「日本98系列H-GAME中文版!」「連続数週上場日本成人遊戯TOP10」と書かれており、パッケージデザインも日本版とほとんど変わらない。また、メディアであるCD-ROMのラベル面には、フルカラーの画像が印刷されている(写真17)。

実はこの製品、台湾、香港で大人気だそうで、香港のゲームソフト店でも随所で見受けられた。筆者は旺角電腦中心で正規版を185香港ドルで購入したが、新製品であるにもかかわらず早くもコピーのCD-ROMが堂々と販売されており、コピーのほうはたったの70香港ドルであった。すかさずコピー版を作成してしまうあたり、「香港パワー恐るべし」である。

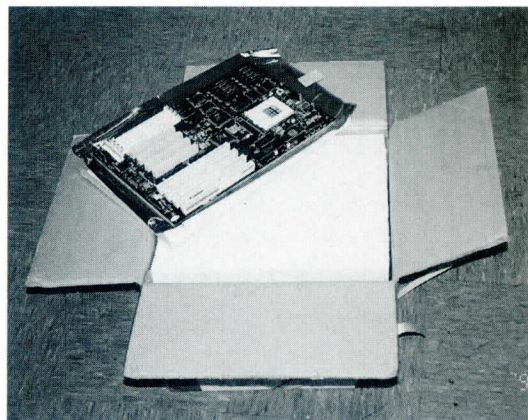


写真15 ダンボール箱に収納されているマザーボード

・麻将情趣屋II

一見、日本のPC-98版Hソフトの移植を思わせるが、これは台湾オリジナルの麻雀ゲームである(写真18)。お国柄ゆえか麻雀ゲームは人気が高いが、この作品もかなり売れているようで、香港のソフトショップでは軒並み宣伝用のポスターが見られた。

このソフトも、台湾の天堂鳥資訊有限公司制作のものである。メディアはCD-ROMで、これもまたCD-ROMのラベル面にカラーの画像が印刷されている。当然IBM PC版。パッケージの表面には「成人密技」とある。旺角電腦中心にて、185香港ドルで購入した。

・光明聖使團(Mission)

日本のソフトハウスであるグレート株式会社で作成したRPGの中文移植版である(写真19)。18禁のソフトかどうかは不明。香港のソフトショップでは新作の棚に並べられていた。メディアはCD-ROMで、ラベル面のフルカラー画像印刷もなかなかきれいだ。

この製品も、旺角電腦中心で185香港ドルで購入した。パッケージには、「喜劇四人組獨創」「由喜劇式人物展開」「終局的RPG世界!」とある。

移植はやはり台湾の天堂鳥資訊有限公司が行っているが、どうもこの会社は日本のPC-98版Hゲームを積極的に移植している会社のように、今後の移植予定の作品としてかなりのタイトル数が予告されていた。その宣伝文句に曰く、

「美少女大膽演出!日本98系列頂極H-GAME大出撃!普通級、制限級、同時發售!」

うーん、なかなか…… ^_^;

・超時空要塞

いわずと知れた人気アニメ「超時空要塞マクロス」の中文版ゲームである(写真20)。もちろん、18禁ソフトではない。

この作品も、日本のソフトハウスであるFAMILY SOFT、BIG WESTからの移植であり、もともとはPC

-98用のゲームである。パッケージには、「PC98改版電玩」本産品係由日本FAMILY SOFT、BIG WEST正式授權在台灣、香港、大陸、馬來西亞、新加坡製作、發行、享有著作權、請勿任意拷貝」との表示があった。

メディアは3.5インチ1.44MBフォーマットのFD 4枚組で、当然、IBM PC互換機上で動作する。移植を行ったのは、台湾にある華義國際(HWAEI INTERNATIONAL) (注13)という会社だ。

これは、旺角電腦中心にて220香港ドルで購入した。

——こうして見てくると、いままではPC-98の独壇場であった美少女系Hソフトも、続々と中文化されてIBM互換機用に移植されている感じを受ける。このままだと、香港のソフトショップがみな秋葉原のLaos GAME館地下1階化(注14)されてしまうのも、時間の問題であろう。

しかし、香港、台湾の人たちは、PC-98上から移植されてくるこういったソフトを見て、どう思っているのだろうか? 「日本にあるPC-98というわけのわからんマシンは、スケベなソフトばかり動作する“謎のマシン”だ」と思っているに違いないような気がするなあ(まあ、当たっているけど……)。

“怪しい”CD-ROMに食傷気味……

さて、話がだんだん怪しくなってきたが、最後にCD-ROMについて報告しよう。

前にも述べたように、昨今のマルチメディア化を反映したものが、香港の各電腦中心ではCD-ROMを販売する店が非常にふえた。

特に、深水埗の高登電腦中心ビル地下1階。これは、すごい。ぜひ一度見学されることをお勧める。これでもかこれでもかといわんばかりに、CD-ROMショップがひしめいているのである。あの狭い空間に、いったい何軒の店が存在するのだろうか? あまりの多さに、さすがに最後には飽きてしまった。

販売されているCD-ROMソフトといえば、やはりコピー版が多い。店頭に並べてあるサンプルをレジに持っていくと、コピーしたCD-ROM(CD-R)を取り出してきて、CD用のケースといっしょに渡してくれる——というスタイルが一般的である。

コピー版には、1枚に1本しか入っていないものから、1枚に4~5タイトルのゲームソフトを入れたものなど、その組み合わせは種種雑多。“なんでもあり”の状況である。ラベルがきれいに印刷されているもの(写真21)があるかと思えば、KAO、MITSUIなどの日本メーカーのCD-Rをそのまま使用したもの(写真22)、素性がさっぱりわからないもの(写真23)など、さまざま

ある。

このうち、URMと書かれているCD-ROMはゲームが数本まとめて収められたものだが、全体が目にも鮮やかな「赤」で塗りたくられており、きわめて“怪しい”。「中文遊戯五合一」と称して、龍騎士3(注15)、八女神物語、聖少女戦隊、銀河英雄傳説、三國誌4などがカップリングされたものもあった(写真24)。

*

さて次回には、深水埗で購入してきたペン入力パソコン「DAUPHIN DTR-1」をご紹介します予定だ(写真25)。そのほかにも、香港でのお勧めおみやげ品と中華料理のレストランなどをレポートする。

しかしまあ、さすがに魔都・香港。すっかり無駄遣いしてしまい、成田に着いたときにやー、財布の中に4120円しか残っていなかったもんなあ(あやうく自宅まで帰れないところであった。情けない……)。



写真21 ラベルが印刷されているコピーCD-ROM



写真23 素性がまったくわからないCD-ROM

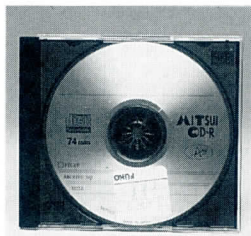


写真22 市販のCD-Rをそのまま使用しているコピーCD-ROM



写真24 中文遊戯五合一のCD-ROM



写真25 DAUPHIN DTR-1

波多利朗の Funky Goods



写真20 超時空要塞のパッケージ

注13) 華義國際(HWAEI INTERNATIONAL)
台北市吉林路144巷11号地下
下一樓
TEL: 02-567-4817
FAX: 02-581-5072
BBS: 02-581-5071

注14) 秋葉原のLaos GAME館地下1階化
行ったことのある方は、すぐにおわかりのことと思う。

Laos GAME館は最近中央通りに面したビルに移転したが、この地下1階が「アダルトソフト専門コーナー」となっており、置かれているソフトは、ほとんどがここで紹介した類のものだ。

店内は明るくきれいで、入ってくる人間はすべて共通の目的を持っているわけだから、買い物はしやすいといえるだろう。もちろん、筆者はほとんど利用したことがないので、詳細はよくわからないが……。

注15) 龍騎士3
日本のPC-98用Hゲームの代表作「ドラゴンナイト3」のこと。